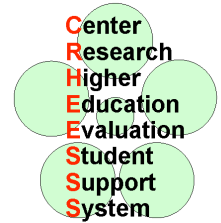


# 週刊センターニュース No.303

第303号(2010年4月5日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: <http://www.rche-kanazawa-u.jp/>



## ●●○ 日本学生支援機構『障害学生支援についての教職員研修プログラム』 (DVD & PowerPoint) について

### ○●○

日本学生支援機構作成の『障害学生支援についての教職員研修プログラム』が完成し、3月末に、全国の大学、短期大学(部)、高等専門学校、および各都道府県教育委員会等に配布された。

詳しくは、機構ウェブサイト [http://www.jasso.go.jp/tokubetsu\\_shien/kentouinikai.html](http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/kentouinikai.html) をご覧いただきたい。報告書の内容と、添付DVDのうち、パワーポイントデータだけはHP上から自由にダウンロードして使っていただけるようになっている。

2年間をかけてプログラムの内容の検討にあたった同機構「障害学生支援についての教職員研修プログラム開発事業検討委員会」の座長を務めた立場から、その内容について紹介する。

障害学生支援のための研修を行いたいが、「学内に専門知識のある講師がいない」「外部から講師を招きにくい」……そんな高等教育機関(以下「大学等」)が多いと思われる。つまり、障害学生が入学してきた、支援を求めてきたという支援初年度の大学等はもちろんのこと、支援を必要とする学生が1人2人だったのが増えてきた、今後は全学的、組織的な取り組みをしなければならなくなったという大学等にとって、支援を担当する教職員の研修は喫緊の課題であるにもかかわらず、どのような研修を行ったらよいのか分からないという事態が想定されるのである。

そのため、この委員会では、まず、障害学生支援について、教職員が身に付けるべき知識・認識について、その内容を各委員が専門家の立場から提案し、それに基づいて討議し内容を確定する作業を行った。その結果プログラムの項目については、①あらゆる障害種、すなわち、肢体、聴覚、視覚などの障害だけでなく、従来はあまり注目されてこなかった内部疾患や、近年急増している発達障害もその対象にしたこと、②大学等のいわゆる「入口」「出口」の重要性を考慮し、大学等と高校との連携について、および企業の新卒者を中心とした障害者雇用についての項目を設けたこと、そして③高等教育機関といっても、大学と短期大学および高等専門学校では事情が異なっているのでそれぞれの学校種ごとにまとめたこと、が特徴となっている。

次に、この委員会では、2008年9月、全国の高等教育機関を対象に実施したアンケート調査の回答をもとに、各大学等における障害学生支援の取り組み内容を学校種・障害種・場面別にまとめた『障害学生修学支援事例集』全394頁を、2009年3月に発行し全大学等に送付した。これは、同時期に並行して行った、障害学生支援に先進的に取り組んでこられた大学等への訪問調査を通じて、どの大学等でも支援の成功例も失敗例も経験しており、それらの具体的な経験の文字化による共有を通じてこそ、より不安の少ない支援活動になると考えたからである。プログラムはこの事例集を副教材として活用してもらうことも念頭において作成した。

このような内容検討・確定作業の後、だれでも講師役ができるパワーポイントを作成することを試みた。つまり、パワーポイントスライドのフットノートとして読み上げ原稿を添付することにより、少なくとも、一定レベルの情報提供だけは、誰が講師となっても研究会が開催できるというものを目指した。最終的には、パワーポイントだけでなく、プロのアナウンサーが原稿を読み上げるDVDも作成したので、参加者が時間調整を行い集合しての研修だけでなく、各教職員が個人でも自己研修が可

能なものとなった。

作成されたプログラムの構成、特徴について、機構のHPから抜粋引用することとする。

「1. プログラムの構成 研修内容を視覚的に表現したスライドと、各スライドを解説するフットノートの組み合わせからなる全8章、スライド数424枚で構成されています。

①『障害学生支援についての教職員研修プログラム』（映像編）スライド映像をナレーションによって解説しているもので、映像視聴型研修の教材としてご利用いただけます。

②『障害学生支援についての教職員研修プログラム』（スライド&解説編）PowerPoint データです。受講者用の配布資料として、また、講師がスライドを投影しながら解説する講義型研修の教材としてもご利用いただけます。

1. 学校が障害学生を支援するための基本姿勢 2. 障害学生理解 (PPT: 1,740KB) 3. 学内支援体制(大学・短大) 4. 学内支援体制(高等専門学校) 5. 学外資源の活用 (PPT: 1,110KB) 6. 支援技術の活用 7. 高大連携 8. キャリア教育支援 (PPT: 1,821KB) 巻末資料

2. プログラムの特徴 ・目や耳に優しいユニバーサルデザイン 視覚障害、聴覚障害等のある方にも活用していただけるようアニメーションや色使い、効果音についても、出来るだけユニバーサルデザインに配慮しました。

・オリジナルプログラムの作成に対応 研修の目的、内容、時間等に合わせてオリジナルプログラムを組むことができます。映像編をご利用の場合は、全8章のうち必要な章だけ、あるいは各章の中でも必要な項目だけを選んで再生できます。PowerPoint データをスライド投影される場合なら、スライド単位で必要なものだけを組合せてご利用いただけます。例えば、既存の各種研修の中に1章約6分のスポット研修を盛り込むなどフレキシブルにご利用いただけます。」

(文責：教育支援システム研究部門 青野 透)

## 〇〇〇 博士研究員 研究成果のお知らせ 〇〇〇

当センターの尾関美喜博士研究員(IR担当)を筆頭著者とした研究論文が、学会誌『メディア教育研究』(第6巻第2号、14-20頁、2010年、発行者：放送大学ICT活用・遠隔教育開発センター)に掲載されました。

「大学教員を対象とした授業改善の現状に関するケーススタディ」尾関美喜・山田政寛・末本哲雄・青野 透(金沢大学)

2009年3月から4月にかけて、アカンサスポータルを通じて実施された「第2回教育効果とFDに関する教員アンケート」にもとづき、実際に行っている授業改善および今後取り組みたい授業改善について、自由記述あるいは複数回答による選択項目での収集データから、教員経験(年数)と文理別で比較を行っています。そこでは、経験が浅い教員は説明技法の改善に注力し、中堅の教員は協調教育を取り入れて授業改善を行う傾向が見られたほか、文理別でみると文系は学習の動機付けやパワーポイントを使ったプレゼン力を改善したいという希望があることが示唆されています。

詳細は、[http://www.code.ouj.ac.jp/wp-content/uploads/gencho\\_20330.pdf](http://www.code.ouj.ac.jp/wp-content/uploads/gencho_20330.pdf) でご参照できます。

## 〇〇〇 センタースタッフの研究成果公開活動報告(2010年3月) 〇〇〇

教育支援システム研究部門

青野 透 3月18日 第16回大学教育研究フォーラム(主催：京都大学高等教育開発研究センター、於：京都大学)の「FD・授業公開研究会」にて、「大学院の教育力向上を主とした教職員職能開発(FD・SD)について」と題し個人研究発表。

同 3月19日 同フォーラムのラウンドテーブル「授業情報保障の質的向上とネットワークの役割ー日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク PEPNet・Japan の取組ー」にて、企画者として「教

員の教育支援としての授業情報保障」と題し報告。